

執筆者紹介

| | |
|-------|----------|
| 向井鹿松 | 横浜商科大学教授 |
| 大澤一雄 | 助教 |
| 大久保堅二 | 教授 |
| 朝倉哲夫 | 講師 |
| 中島照雄 | 助手 |
| 実吉晴夫 | 講師 |
| 宮原義友 | 講師 |

編集後記

この三月、私達は本学最初の卒業生を社会に送り出すことになりました。卒業してゆく者にとってはいうまでもないことですが、送り出す私達にとっても、期待と不安の入り混った季節になったわけです。卒業生は、それぞれの職場に先輩もなく、助言を与えてくれる人も居ない状態で、人一倍の緊張を強いられることは想像に難くありません。しかし、逆にいえば、今までにない新しいものを社会に示すことができるという意味で、自信をも、て社会への第一歩を踏み出してゆけるのではないかとも思います。

情報が氾濫し、情報公害という言葉さえ生まれてきた現在、本質的なものと皮相的なものを見分けることが、社会人として第一に必要な要件となるわけですが、情報を分析し、批判し、選択する能力を常に高めてゆくための努力を、卒業生諸君に期待したいと思います。

商大論集四巻二号も、この時期にお届けするわけですが、私達もこの機会に、従来の論集について、いろいろな意味で反省と再検討をしなければならないのではないかと考えて居ります。本当の完成年度をひかえて、学術研究の体制をより整備充実させるための、新しい何かを探索し、そのための努力を続けてゆきたいと思います。

終りに執筆にあたられた諸先生に感謝申上げると共に、刊行の時期が迫っていたため、いろいろ御迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。（大済・染野）